



第 29 号

2000年9月

岡山県古代吉備文化財センター

▲ 西江遺跡（哲西町）出土特殊器台文様



遺跡南部の竪穴住居群

県北の古墳時代集落

— 下湯原B遺跡 —

下湯原B遺跡は、岡山県三大河川の一つ旭川上流域の左岸側、真庭郡湯原町下湯原に所在しています。なお、遺跡から1km程北には湯原温泉があります。ここでは、畑の耕作土などで古代や中世の土器片が見つかることから、範囲や性格などは明らかでないものの遺跡が広がっていると考えられていました。

現在、湯原町^{ウツハラ}久見から湯本（湯原温泉）間で

は国道313号線の改良工事が進められています。その用地に遺跡の一部が含まれることが推定され、平成10年度に確認調査を実施しました。その結果、遺跡の南限や古墳時代から中世にかけての集落跡などがみつき、工事に先立って平成11年4月から平成12年6月まで用地内の発掘調査を行いました。

発掘調査は、調査対象地が道路用地であるこ

とから全長250mにおよんでいます。幅が15m程の南北に細長い調査区となり、遺跡全体に対しては非常に長大なトレンチを設けた様相を呈しています。

調査の結果、おもな遺構として竪穴住居・溝・墓などが検出されました。竪穴住居は、いずれも古墳時代後期と考えられ、一部分のみが確認できたものを含めると、遺跡の南部を中心に10軒、北半部から7軒の合わせて17軒が検出されました。大きさなどは多少の違いがあるものの、おおそ一辺4～5m程の規模で、隅が少し丸くなった方形もしくは長方形の平面形を呈しています。床面では中央部を中心に堅く敲き締められた面が確認され、大体4本の主柱穴で構成されています。また、いずれの竪穴住居からもカマドは検出されず、明瞭な壁体溝も認められていません。これらの竪穴住居のなかには、焼土と共に完形の須恵器などを含む土器が比較的多く出土している焼失住居がありました。また、覆土中から鉄鏃や刀子などの鉄製品が出土した住居や、青銅製の小形仿製鏡と鏡形土製品（写真）の出土した住居、ミニチュアの土器が多数出土した住居などがありました。



溝・竪穴住居の掘り下げ風景

溝は6条検出されています。おもなものとしては、遺跡南端と調査区の北東部の2条があります。遺跡南端の溝は、最大幅3m・検出面からの深さ1m程の規模で、遺跡の下がりに沿って東-西方向に流走しています。しかし、この溝からは時期を確定できる遺物がなく、古墳時代の集落に伴うものかどうか判然としません。また、北東部において検出されたほぼ南-北方向に真っ直ぐ流走している溝は、幅約2.5m・深さ1.5m程の規模で、断面が「U」字形の堀状を呈するもので、埋土中からは奈良時代後半頃の土器が多く出土しています。なお、その中には壺の底に「大井□」の文字が線刻された須恵器が出土しています。

墓は2基検出されています。1基は80×60cm程の墓壇に石を立て、蓋石で覆ったごく小さなものです。もう1基は、上部が削平され蓋石などはありませんでしたが長さ150cm・幅20～30cm程の規模で箱式石棺状を呈しています。乳児や小児を埋葬したものと思われます。いずれも副葬品などはなく、竪穴住居の埋没後に造られているもののそれほど時期差はないと考えられます。

このほかに、南部で7×5m程の掘立柱建物（4×3間）1棟が検出されたほか古墳時代から中世の柱穴も多数検出されています。



（内藤善史）「大井□」線刻土器



竪穴住居から出土した須恵器



小形仿製鏡（左）と鏡形土製品

小坂古墳群の発掘調査

小坂古墳群は、岡山県東部の和気郡佐伯町小坂に所在し、平成12年4月から、美作岡山道路建設に伴う発掘調査を行っています。南北にのびる丘陵の尾根部に所在する小坂1号墳、小坂4号墳の2基の発掘調査を行いました。

1・4号墳は丘陵の南西端部、標高114～118mに位置し、眼下には昨年度の発掘調査で緊急に見つかった古代末の八ヶ奥製鉄遺跡と、弥生時代後期の集落遺跡である八ヶ奥遺跡が見下ろせる位置にあります。

4号墳は、すでに墳丘の形をとどめておらず、明確な古墳の規模はわかりませんでした。墳頂部には遺体を納める主体部が残り、長さ2.6m、幅0.8mを測る長楕円形の掘りこみがありました。その上面は削平されていて、残存は深さ15cm程度で、なかに扁平な板状の石を一列に並べて使用した箱式石棺が確認されました。これらの底石はほぼ同じ高さにそろえられており、若干両端の石が高くなっています。写真右側が西になりますが、こちら側が頭の方ではないかと考えられます。また、棺の上から一組の須恵器の杯身と蓋が見つかりました。この蓋は大きく2つに割れ、分離した状態で出土していることから、遺体の埋葬に伴い故意に破碎されたことがわかります。そして、出土した須恵器の年代から、4号墳は6世紀後半の築造と考えられます。

1号墳は、4号墳から尾根づたいに隣接した立地にあります。直径7～8mの平面楕円形の墳丘をもち、東西方向に延びる尾根を区切るよ



小坂4号墳箱式石棺（北から）



小坂1号墳横穴式石室（南から）

うに西側と東側に周溝がめぐっていました。主体部は南東方向に開口する横穴式石室で、石室は天井石まで完全に土で埋まった状態で見つかりました。横穴式石室は、遺体を納める玄室と、これと外とをつなぐ羨道からなっていますが、1号墳では玄室をふさぐための閉塞石が確認されました。石室の規模は、全長4.5m、玄室長3.5m、玄室幅1.4～1.5mとあまり大きなものではありません。石室内からは、須恵器の杯身と蓋、高杯、平瓶、土師器の高杯、椀のほか、木棺に用いられていた棺釘、鏃などの鉄製品が出土しました。須恵器や土師器などの副葬品の一部は隅に片付けられ、何度か追葬が行われたことがわかります。出土遺物には玉類などの装身具や武器などはありませんが、石室内からは製鉄の際にでてくる鉄滓が出土していて、この古墳の被葬者の性格がおほろげなうかがえます。出土した須恵器から、1号墳の築造は7世紀前後であると考えられ、その後数回の追葬が行われていたようです。

今回の調査成果から、小坂古墳群では6世紀後半に4号墳が築造され、その後少しの空白期間を経て、1号墳が築造されていることがわかりました。
(松村さを里)

津島遺跡出土の弥生時代前期石器

岡山県陸上競技場改修に伴って発掘調査されている津島遺跡では、調査が進むに従って様々な時期の遺構が見つかり、現地説明会も開催されるなど注目を集めています。

中でも弥生時代前期の水田跡は、岡山県はもとより全国でも発見される場所が限られていて、貴重な遺構であるといえます。ところが、この水田跡からは遺物はほとんど出て来ません。主に生活の場にあった竪穴住居や土壌などからは多くの土器などが見つかりますが、水田跡では土器があっても小片の場合がほとんどです。

今回紹介する石器は、平成11年度の調査でまさに水田跡に直接張り付いて出土したものです。

石包丁は稲の穂首を刈って収穫するために使用する道具で、稲作にはなくてはならないものです。今回見つかったものは長さ12.3cmで、片手で使いやすい大きさです。石を研いで形を作り上げています（磨製）。刃として使用したのは外側に湾曲した部分（写真の下側）です。刃



の部分に平行して丸い穴が2つあけられていますが、この穴にひもを通して石包丁を手に固定したと考えられています。

また、石鏃が2点出土しています。文字通り石のやじりで、長さが2.2～2.3cm、サヌカイトという硬い石を打撃して形を整えています（打製）。弥生時代前期の水田から石鏃が出土するのはまれではありません。津島遺跡の北に存在する北方下沼遺跡からも、弥生時代前期の水田から石鏃が見つかっています。（氏平昭則）

百間川原尾島遺跡の木製品

百間川原尾島遺跡は、岡山市内を流れる旭川の放水路である百間川の河川敷内に位置します。

平成11年度の調査では、古墳時代中～後期の溝で木製扉板（写真下）が、弥生時代前期の川からは木製高杯（写真右）が出土しました。

扉板は現存で78×25cmの大きさです。厚さ2～3cmの扉には、高さ8cmの重厚な門受けが削り出されています。これにより、戸口は高さ約120cm、幅約80cm程度と推定されます。同形式の例としてはこれが全国5例目で、埴輪等



にも表現されることの少ない古墳時代の建物の戸口を具体的に示すものとして貴重な資料です。

高杯は一木式で、高さ13.7cm、口径約22.7cm、脚の高さは7.7cmあります。弥生土器の主要器種は「壺、甕、高杯」と言われますが、前期の土製高杯は少なく、こうした木製高杯が使われていたようです。しかし、木製品は腐りやすく、前期のものは全国で35点（16遺跡）のみ、さらに全体の形がわかる例は少なく、近畿地方以外では初めての出土となります。（柴田英樹）

センターの活動から

1. 津島遺跡現地説明会

センターでは、毎年県下各地で発掘調査を実施していますが、その際にはできるだけ多くの人に調査の状況を知っていただくため、現地において遺跡の説明会を開催しています。

今年は、平成17年岡山国体の主会場に決定し、現在調査中の津島遺跡において実施しました。

戦前より縄文時代晩期から歴史時代の遺跡として大変よく知られた津島遺跡は、昭和43年の武道館事件をきっかけとして全国的な文化財の保存運動の先駆けとなり、その一方発掘調査によっても弥生時代前期の集落と水田の存在が明らかとなる等、一躍全国的に有名になりました。そして現在その一部は国指定史跡として公園内に保存されています。

発掘調査は、県陸上競技場メインスタンド解体後の今年1月から12月いっぱいの子定で、新たに建設されるメインスタンドと照明塔2カ所の基礎部分、合計6,800㎡を対象にその事前調査を実施しています。

現地説明会は、調査途中の7月1日、それまで確認できた弥生時代前期の水田面の広がり、調査途中ながら古墳時代の集落等の調査状況を、また同時に出土した遺物についても展示を行い多くの人に見ていただきました。

当日は、猛暑の中300名近い熱心な方々の参加を得、盛況の内に終了しました。多くの参加者の中からは遺構・遺物についての質問が調査担当者に向けられていました。



センター所長の挨拶



古墳時代後期の竪穴住居



古墳時代中期の竪穴住居



弥生時代前期の水田跡

2. 最近の岡山県下における埋蔵文化財発掘調査報告会

毎年恒例となっている「最近の岡山県下における埋蔵文化財発掘調査概要の報告会」が、去る8月5日に岡山県生涯学習センターにおいて開催されました。

当日は猛暑の中、180名をこえる参加者で会場は満席となり、各報告者の発表や質疑応答、また要望が出されるなど会場内も熱気に満ちていました。

なお、当日の発表は次のとおりでした。



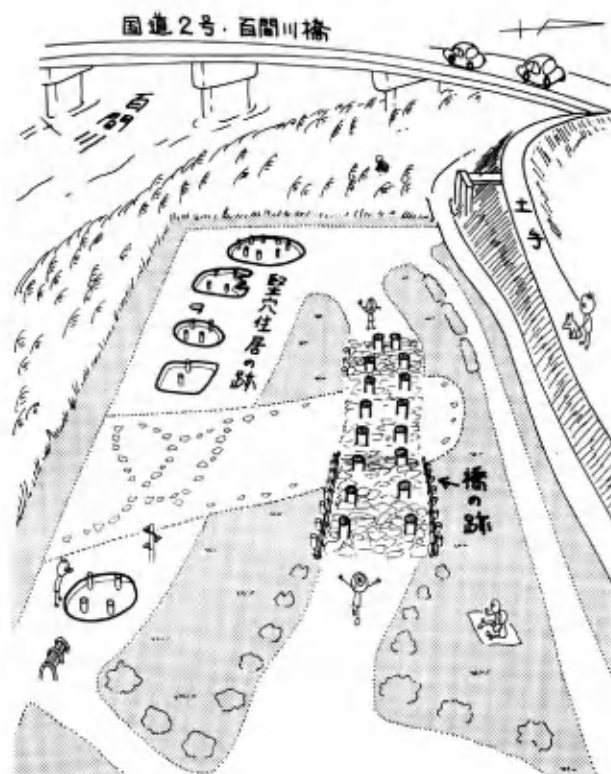
満員の会場



受付のようす

- | | |
|----------------|----------|
| (1) 清水谷遺跡 | 矢掛町教育委員会 |
| (2) 下湯原B遺跡 | 県文化財センター |
| (3) 鬼城山 | 県文化財センター |
| (4) 郡遺跡 | 落合町教育委員会 |
| (5) 小坂八ヶ奥製鉄遺跡 | 県文化財センター |
| (6) 妹尾住田遺跡 | 岡山市教育委員会 |
| (7) 伊部南大窯周辺窯跡群 | 備前市教育委員会 |

3. 復元された「中世の橋」



平成8・9年度に百間川米田遺跡（岡山市米田）の調査で発見された中世の橋の跡が岡山県都市計画課により、岡山市沢田の百間川北側河川敷の公園に復元されました。この橋は鎌倉時代の初めから室町時代後半にかけての約300年間、港へ通じる橋として様々な文物の流通を支え、重要な役割を果たしました。また杭や板、石を使った橋の基礎部分は全国的にも珍しいものです。ぜひ、足をお運びください。



太い丸太が橋脚です（写真奥は沢田橋）

4. 展示室にいらっしやい!



弥生人のおまもり?

▶分銅形土製品◀



展示室で
まってるよ!



▲まじないに使われた?

陶馬



▲江戸時代の製鉄工場
高殿たたらの復元模型



▲古墳時代のお棺 陶棺



▲権威の象徴
特殊器台形埴輪

センターの展示室では、岡山県教育委員会が実施した発掘調査で出土した数多くの遺物の中から、新聞紙上をにぎわせた話題の出土品や、岡山県の歴史を物語る各時代の遺物を所狭しと展示しています。また、考古学のミニ知識を盛り込んだ説明パネル、遺跡の理解を深めるのに役立つ復元模型を多く使用して、見学者の方に分かりやすい展示を心がけています。歴史や考古学に興味のあるあなた、ぜひいらしてください。きっとご満足いただけますよ。



注目の新展示品、上東遺跡の波止場状遺構復元模型



展示室の様子

5. 最近刊行された報告書

センターでは、昨年度末に新たに6冊の報告書を刊行しました。これらの報告書は、県内では、県総合文化センターや岡山市立中央図書館あるいは市町村教育委員会にあります。また、各都道府県の関係機関などにも配布しており、学術研究や埋蔵文化財の普及・啓発のために活用されています。内容など詳細については当センターへお問い合わせください。

- ①『道面遺跡・塚地古墳』県道矢掛寄島線改良事業に伴う発掘調査2
- ②『山形福田遺跡』一般県道堀坂勝北線整備事業に伴う発掘調査
- ③『北方地藏遺跡2 北方薮ノ内遺跡』都市計画道路万成・国富線建設に伴う発掘調査Ⅱ
- ④『高塚遺跡 三手遺跡2』山陽自動車道建設に伴う発掘調査18
- ⑤『津島遺跡2』武道館建設当初予定地の発掘調査
- ⑥『加茂東廃寺』県営加茂川町圃場整備事業に伴う確認調査

岡山県古代吉備文化財センターの組織と職員 (平成12年度)

〈組織〉



〈職員〉

所長	長	正岡睦夫
次長	長	能登原巧
総務課		
課長	長	小倉昇
総務係		
課長補佐(係長)		安西正則
主査		山本恭輔
主事		志摩尚史・中塚廣佳 中川清・高島久義 山崎一人
調査第一課		
課長	長	高畑知功
第一係		
課長補佐(係長)		中野雅美
文化財保護主幹		山磨康平
文化財保護主査		宇垣匡雅(岡山市へ派遣) 大橋雅也
文化財保護主任		扇崎由(岡山市から派遣) 渡邊恵里子
文化財保護主事		奥野光廣・尾上元規(文化課本務) 佐藤寛介・重根弘和



主事		梶藤智之
第二係		
課長補佐(係長)		島崎東
文化財保護主幹		井上弘・平井勝
文化財保護主任		氏平昭則
文化財保護主事		金田善敬・岡本泰典 杉山一雄・小林利晴 時實奈歩 米田克彦
主事		
調査第二課		
課長		伊藤晃
第一係		
課長補佐(係長)		江見正己
文化財保護主幹		赤井義典・平井泰男
文化財保護主査		三船幹也
文化財保護主事		根本智宏
主事		河合忍・上楢武 坪井聡子
第二係		
課長補佐(係長)		福田正継
文化財保護主幹		岡本寛久
文化財保護主査		内田博雄・権田俊朗 佐染信也
文化財保護主任		弘田和司・常安伸
主事		梶田亜友美
調査第三課		
課長		柳瀬昭彦
第一係		
課長補佐(係長)		浅倉秀昭
文化財保護主幹		杉山光紀
文化財保護主査		龜山行雄
文化財保護主任		柴田美樹・窪津幸司
文化財保護主事		物部茂樹 松尾佳子・若林学 白神賢士
主事		
第二係		
課長補佐(係長)		下澤公明
文化財保護主幹		二宮治夫・内藤善史
文化財保護主任		澤山孝之
主事		下垣豪・中島和哉 松村さを里
第三係		
課長補佐(係長)		岡田博
文化財保護主幹		光永真一
文化財保護主査		築地由行・高田恭一郎
文化財保護主事		蛭原啓介・小嶋善邦 三宅健夫

編集・発行

岡山県古代吉備文化財センター

所在地 〒701-0136

岡山市西花尻1325-3

TEL (086) 293-3211 FAX (086) 293-0142

<http://www.pref.okayama.jp/kyoiku/kodai/kodaik.htm>

●交通案内

- ・JR山陽本線庭瀬駅下車タクシー10分
- ・JR吉備線吉備津駅下車徒歩25分
- ・JR岡山駅下車岡電バス岡山駅前より
神道山行終点下車徒歩5分

開館時間 AM9:00~PM5:00

休館日 土曜日・日曜日および祝日、年末・年始